

株主のみなさまへ

..... Vol.41

株主通信 第109期第2四半期

2015年1月1日～2015年6月30日



SHIMANO

表紙:アメリカ アラスカ州イェント川での釣り風景

SHIMANO



代表取締役社長 島野 容三

事業の経過および成果

当第2四半期連結累計期間は、欧州ではユーロ安を追い風に輸出の回復テンポが加速し全体としては緩やかな景気回復が続いたものの、期末にかけてギリシャの債務問題が再燃、個人消費は減速傾向を示すこととなりました。米国では雇用者数の増加基調が継続する中、ドル高・原油安の進行に一服感が出始めたことを好感し、企業業績は緩やかながらも拡大しました。

国内では、力強さに欠けたものの個人消費が緩やかな回復を維持しました。また、海外経済が緩やかに回復を続ける中、円安定着も後押しし、企業の景況感は輸出企業を中心に改善が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよるこびに貢献する。」

を使命に、健康志向や環境保全意識の高まりといった追い風の中、こころ躍る製品づくりを通じ、より豊かな自転車ライフ・フィッシングライフのご提案をまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は196,585百万円（前年同期比25.8%増）、営業利益は45,356百万円（前年同期比49.2%増）、経常利益は49,664百万円（前年同期比70.6%増）、四半期純利益は36,532百万円（前年同期比75.8%増）となりました。

自転車部品

欧州、北米市場はともに上半期中に多少の天候不順があったものの、このことによる需要低下はほぼ見られず、一方で自転車活用に対する社会的注目度が強まる中、上半期の店頭販売は順調に推移しました。欧州市場在庫はほぼ適正レベル、北米市場在庫はやや低いレベルを維持しました。

国内ではスポーツタイプ自転車の店頭販売は堅調を維持したものの、軽快車の店頭販売は円安による値上げの影響を大きく受けて低調に推移したままであり、軽快車の市場在庫は依然としてやや高いレベルに留まりました。

新興国市場におけるスポーツタイプ自転車は堅調な伸びを継続しましたが、一番の牽引役を担っていた中国における上半期店頭販売は昨年を下回りました。しかしながら、中国スポーツタイプ自転車の市場在庫は適正範囲内で推移しました。

このような市況のもとマウンテンバイクコンポーネントの「DEORE XT」、「ACERA」、ロードバイクコンポーネントの「Tiagra」のフルモデルチェンジが好評で、多くの注文をいただきました。加えて、定着した円安による当社製品に対する割安感の追い風を引き続き受け、上半期の売上は予定を上回ることでできました。

この結果、当セグメントの売上高は163,002百万円（前年同期比29.7%増）、営業利益は42,759百万円（前年同期比51.8%増）となりました。

釣具

国内市場では、年始からの降雪など天候影響もあり低調な出足となり、1～3月は昨年の消費税増税前の需要を上回ることができず、前年を下回る状況となりました。その後、ゴールデンウィークに入り、好天にも恵まれて市場に動きが出始め、4月以降では昨年を上回る売上を残せましたが、市場では消費動向も鈍く一進一退を続けたことで対前年微減の結果となりました。

一方、海外市場では、北米、西欧、ニュージーランドを含むオセアニアにおいては、比較的安定した天候に恵まれたこと、また注文を早々にいただけたことなどもあり、概ね堅調な販売推移となりました。

この結果、当セグメントの売上高は33,386百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は2,667百万円（前年同期比19.2%増）となりました。

その他

当セグメントの売上高は196百万円（前年同期比5.2%減）、営業損失は70百万円（前年同期は営業損失7百万円）となりました。

中間配当のご報告

当社グループは、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題ととらえており、安定的な配当の維持・継続とともに、

業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の中間配当金につきましては、前年同期から25円増配の1株当たり77円50銭（うち特別配当71円25銭）とさせていただきます。なお、当期の年間配当額についても、前期から50円増配の1株当たり155円を予定しております。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、欧州ではギリシャ政府が期限までに債務を返済できず事実上のデフォルト状態に陥ったこともあり、今後信用不安の拡大が懸念されます。米国では雇用の堅調な回復を背景に、個人消費は堅調に推移するものと思われます。

国内では、昨年10月の決定に即した金融緩和が進められており、個人消費や設備投資に関しては今後も緩やかな回復基調が続くものと思われます。一方、為替は円安基調が続いているものの、ギリシャ問題の影響など楽観できない状態になっております。

このような経営環境の中、当社グループは、国内外の経済動向に注視しつつ、経営効率のさらなる向上を図り、より豊かで、新たな自転車文化、釣り文化の創造を促進してまいります。

なお、平成27年4月28日に公表いたしました当期の連結業績予想につきましては、これを修正し、売上高360,000百万円、営業利益77,000百万円、経常利益81,300百万円、当期純利益59,500百万円とさせていただきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

平成27年9月

Shimano (Singapore) Pte. Ltd.は1973年5月に株式会社シマノ(当時：島野工業株式会社)の最初の海外工場として設立されました。

国際空港 (Changi Airport) から車で西へ約35分、ジュロンタウンにあり、小さな自転車部品の組立センターから始まりましたが、今では、研究開発、デザイン、製造と金型の生産ができる工場にまで発展しました。また今後、次世代の“こころ躍る製品”を創造する知識集約型工場を目指してさらなる進化を着実に重ねてまいります。



最初の海外工場がなぜシンガポールだったか？

1972年にアメリカで起こったバイコロジー運動は、海外に生産拠点を設けることをいよいよ逼迫したものにしていました。国際競争力を高めていく上でも、輸出比率の高いシマノがどこかの国で日本製品の輸入規制がとられた場合のリスクを避ける上でも、海外生産拠点は必須のものとなっていたのです。政治や経済が安定していてクリーンな行政であること、良質で豊富な労働力があることを条件に、候補地を探しました。シンガポールは当初のリストアップから外れていましたが、ふとしたことがきっかけで、当局より誘致を熱心に勧められ、本格的に調査・検討を始めることになりました。調べてみると、本社の在る日本、またメインマーケットであるアメリカ・ヨーロッパとの位置関係も申し分なく、候補地として挙げていた条件を十分に満たしていることが判ってきました。企業優先の環境、誠実で開放的な政府、専門性の高い労働力、低い所得税、先進的なインフラ整備などのシンガポールの政策が、安心して進出できるバックボーンとなりました。

Shimano (Singapore) Pte. Ltd.の担う役割

- ・ 中価格帯自転車部品の製造／販売
- ・ 企画およびサービスの提供
- ・ 海外で最初の研究開発拠点
- ・ 主要な材料の国際調達供給
- ・ アジアにおける物流センター
- ・ すべての海外生産拠点へのサポート



東南アジアでの自転車文化の発展を願って —— シマノ サイクリングワールド

SHIMANO
cycling world

自転車文化の発信基地

SHIMANO Cycling World (SCW) が、シンガポールのスポーツ複合施設SINGAPORE SPORTS HUB内に2014年9月25日オープンしました。

SCWは、自転車をテーマとした広さ約650㎡の体感型展示施設。人々が自転車により親しみを抱き、自然をより満喫できる新しいライフスタイルを実現できるよう、様々な提案をしていきます。展示は、自転車の歴史、世界の自転車事情、製品の仕組みなどを知ることができる8つのコーナーで構成。自転車好きだけでなく、初心者にもなじみやすい展示です。

当社としては、このSCWを通じ、自転車をライフスタイルのひとつとして、シンガポールのみならず、東南アジアの人々に提案していきたいと考えています。



Dream Machine
変速ギア、チェーンなどの造形が織りなすサイクリングの世界観を提示しています。



Club House
自転車に関するコンシェルジュコーナー。展示を通してものづくりへの情熱を感じていただけます。



Cycling Global / Cycling Singapore
世界のサイクリング情報を紹介するモニターを設置。世界各地/シンガポール国内のサイクリングコースや、ツアーなどを検索できます。



Surround Stage
自転車に関するセミナーや特別展示など多用途に使用します。



The Forge
シマノの最新テクノロジーや、ものづくりへの想いを体験するコーナー。



History
自転車とシマノの歴史を伝えます。



SCWのエントランス



SINGAPORE SPORTS HUB 全景

マウンテンバイク コンポーネント SHIMANO DEORE XT M8000シリーズ登場

近年、マウンテンバイクには様々な楽しみ方が見られるようになり、乗り手の好みや技量によって、求められる機能や特徴はますます多様化しています。SHIMANO DEORE XT M8000シリーズは、昨年発表したマウンテンバイク最高峰コンポーネント SHIMANO XTR M9000シリーズから、先進のオリジナルテクノロジーを引き継ぎ、乗り手が意のままに自転車を操り、走ることに集中できるマウンテンバイクの新しいスタンダードを確立しました。後ろ変速ギアの11段化と、前ギアにはシングル、ダブル、トリプルを用意することで色々な地形や幅広い乗り方に対応しています。常にペダリング効率が良い前後ギアの組み合わせが選べるとともに、変速操作もより軽い力で確実に行うことができるようになっています。



DEORE XT M8000シリーズ

シマノ初のマウンテンバイク専用コンポーネントDEORE XT

1982年 初代SHIMANO DEORE XT 誕生

1970年代後半、サンフランシスコの北部で自転車を改造して山を駆け下る遊びが行われていました。これがマウンテンバイクの始まりと言われています。シマノはいち早くこれに対応し、マウンテンバイク専用DEORE XTを1982年に発表しました。次モデルではシマノ独自のテクノロジー、「SIS」*を後ろ変速システムに搭載し、誰もが簡単に確実に変速できるようになりました。

*シマノインテックスシステム：ライダーの感覚で行っていた変速レバー操作を、位置決め機構を設けることで機械的に行なえる方式。



「SIS」搭載のM730シリーズ

1996年 新機能搭載M739シリーズ 登場

1990年代になると、大きなマウンテンバイクブームが訪れます。M739シリーズは、ハンドルをしっかり握ったまま人差し指と親指だけで簡単に変速操作が可能となった「ラピッドファイヤー」機構、高い制動力を発揮する「パラレルリンク」構造のVブレーキなど、レースシーンでも大きな活躍を見せました。



変速操作に優れた「ラピッドファイヤー」シフトレバー



大きな制動力を発揮するVブレーキ

2007年 より使いやすく、先進のM770シリーズ

2000年代には、マウンテンバイクの人気はすっかり定着し、フィールドや競技種目の多様化が進みました。M770シリーズは軽量性と剛性を両立する「ホローテック II」、中空構造の前ギアや強力な制動力とコントロール性を両立した「サーボウェーブ・アクション」を搭載したブレーキレバーなど、現在採用されている機能により、幅広くマウンテンバイクを楽しめるようになりました。



「サーボウェーブアクション」でブレーキとコントロール性が高められたBL-M775

企画者のことば

DEORE XT M8000シリーズは、バイクの高性能化と相まってさらに幅広くなっている乗り方、バイクやライダーのスタイル等、様々な要求に対して妥協せず対応できる、使いやすいコンポーネントを目指しました。

フルサスペンションバイクでも安定した駆動と変速を生む前後ギアシステム、軽量化されたブレーキ、操作性を向上させた変速レバーと合わせて、高い性能が長続きするように耐久性の向上も図り、効率の良い走りを実現できるようになっています。ホイールは新構造の幅広リムで、重量増を抑えつつタイヤの保持性を向上させ、よりアグレッシブな乗り方に対応しています。

外観にもこだわり、“乗って楽しい”だけでなく、“DEORE XTに乗りたくない”と思えるコンポーネントに仕上げました。

さらに満足いただける製品をめざして

現在もマウンテンバイクは、世界中で多くの人々に楽しまれています。初代DEORE XTが発表されて33年、これからもマウンテンバイクをより楽しむためのコンポーネントとして変わりなく成長を続けていきます。



E6000シリーズ新モデル、カラーを追加。 北米市場にも展開

E-bike(電動アシスト自転車)専用コンポーネントE6000シリーズをアップデートしました。コースターブレーキ仕様のドライブユニット、視認性・操作性が向上したディスプレイ、自転車にバッテリーを取り付けたまま充電可能になったバッテリーマウントなど新アイテムが追加され、カラー展開として従来のグロッシーグレーにマットブラックカラーが加わりました。また、欧州だけに留まらず、世界に広がるE-bike市場の北米への波及を見据え、2015年秋よりアメリカ、カナダで北米仕様のE6000シリーズの本格発売を予定しております。

SHIMANO STEPS E6000シリーズ
マットブラックカラー

自転車と健康の関わりを伝える 情報発信ツール「Cyclingood」

シマノでは、より多くの人に自転車の効用を実感していただくため、「自転車と健康」の関係について研究・発信しています。社内調査または大学との共同研究を通じて自転車運動がもたらす心身への健康効果について調査を実施し、その研究成果をシマノが制作しておりますフリー情報誌および自社サイトである「Cyclingood(サイクリングッド)」に掲載しております。このような活動を通じて、「自転車と一緒に健康的で豊かな暮らし」を一人でも多くの方に知って頂き、また実践して頂くことを目的に、継続的に活動してまいります。

フリー情報誌
「Cyclingood(サイクリングッド)」

Tankenmaru SMART 「水中をスマホに。」

2015年、探見丸がスマートフォン専用アプリとなってリリース!

アプリをダウンロードすれば、釣り人のスマホが探見丸の子機となり水中の情報を手軽に知ることができます。Wi-Fiアンテナ搭載船や、NEW [Tankenmaru SMART FISH FINDER]の使用で画面に情報が映し出されます。



Tankenmaru SMART FISH FINDER



探見丸の歴史

2004年 初代探見丸誕生 白黒

船長が見ているのと同じ魚探映像を、船べりの釣り人がリアルタイムに見ることができるようになったのが「探見丸」です。水深・海底形状・魚の反応といった魚探情報はじめ、電動リールと接続することにより得られる棚タイマーやリール水深の「5つの情報」に加え、様々な機能を使いこなすことが可能になりました。



初代探見丸

2008年 探見丸CV登場 カラー

16色カラーの鮮明な画面を備えた探見丸CVを発売。魚影は濃いのか? 薄いのか? 大型の魚がどこにいるのか? など実釣に役立つ情報が一目瞭然。専用バッテリー不要で持ち運びが容易な乾電池式を採用(電源コードまたは通信ケーブルでバッテリーとの接続も可能)、海底をくっきりと表示するボトムライン機能、巻上げ回数、巻上げ時間、時計といった新機能も追加。船釣りシーンをより鮮やかに演出できるようになりました。



探見丸CV

2013年~現在 探見丸CV-FISH アクイフィッシュ対応

魚のサイズが一目でわかる「アクイフィッシュ」対応。水深2~100mの間で、10~199cmまでの魚を1cm単位で識別できるようになりました。魚群アラーム機能でビッグチャンスを感じることが容易になり、タイドグラフ機能、電動リールとの併用により可能になる水深並列*、電動リールナビ、ファイト時間などの情報が追加。高輝度の液晶の採用により、直射日光が当たっても画面が見やすくなり、より多くの情報がより得られやすくなりました。

*水深並列: 海底の水深とリールの水深を並列で表示すること



探見丸CV-FISH

インストラクターのこぼれ

今回のTankenmaru SMARTは、無料スマートフォンアプリになることによってお手持ちのスマートフォンが探見丸に早変わり。水深・海底形状・魚の反応などの情報をより簡単に、身近に得ることが可能になりました。水中情報を駆使し、あなたの船釣りライフをより充実したものにしてください!

第66回全国カレンダー展において、「2015シマノ魚拓カレンダー」が金賞ならびに経済産業省商務情報政策局長賞を受賞

日本全国から応募された658作品の中から厳正な審査の結果、金賞21作品が選出され、その中から「2015シマノ魚拓カレンダー」が経済産業省商務情報政策局長賞に選ばれました。経済産業大臣賞、文部科学大臣賞に次ぐ第3番目に位置するものです。

魚拓には、魚に直接絵具を塗って紙を載せる直接法と、魚の上に紙を載せ紙の上から色を載せていく間接法があります。

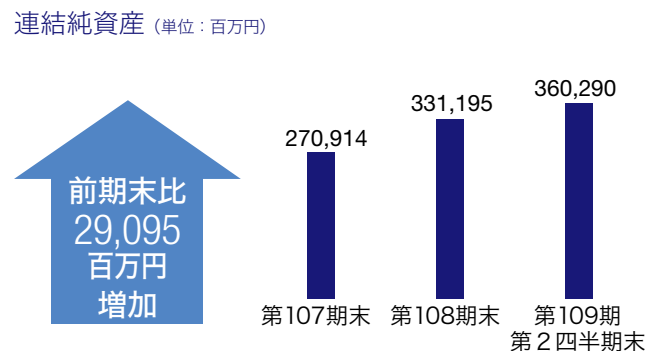
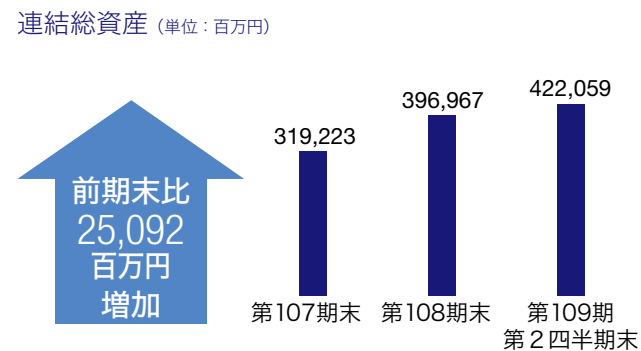
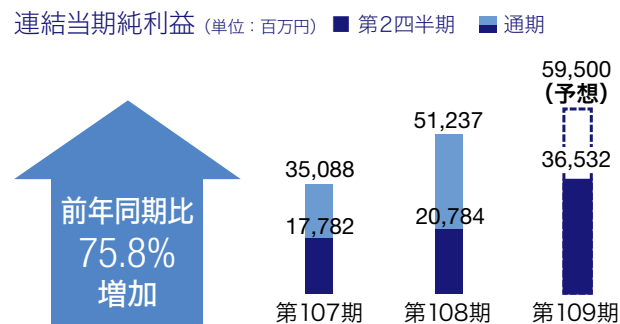
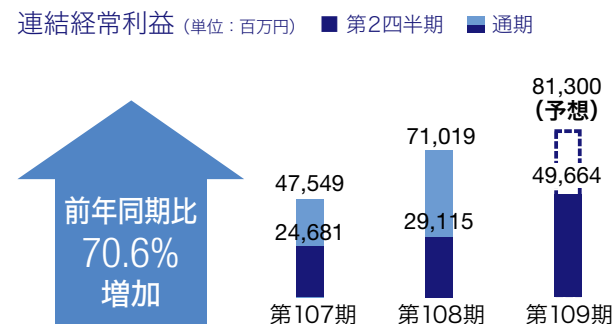
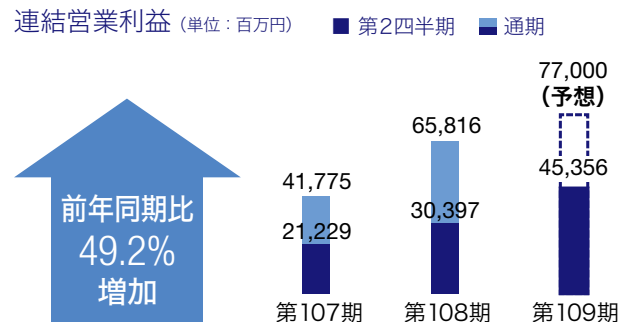
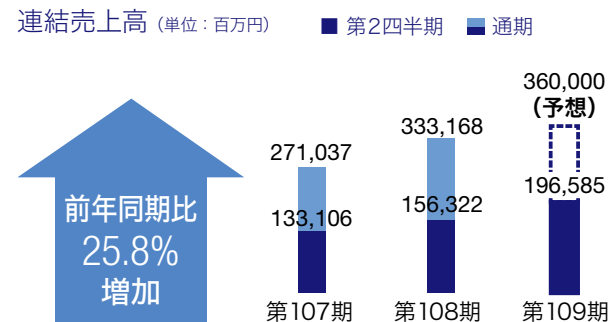
シマノは直接法にこだわっています。私どものお客様である多くの釣り人の魚拓が直接法であり、手軽でかつ迫力があるという理由に他なりません。さらに、魚体表面を直接転写することによるウロコやヒシなど、より忠実に再現するリアルさも兼ね備えており、極めて奥の深いものです。このポピュラーな直接法ですが、実は一発勝負、ごまかしの利かない高度な技、そして「目以外は加筆してはならない」というこだわり故の墨や絵具の乾燥を回避する時間勝負が要求されます。

受賞した魚拓原稿の多くはカラー魚拓でしたが、シマノは前述の理由で、あえてモノクロ風にアレンジしています。但し、完全なモノクロではなく、多くの色を使い魚体のリアルさに迫力とアートを調和。そして魚体のバックへの溶け込み部でも丹念に仕上げ、和をイメージしたデザインとなっています。

釣り人の目線に立って

5年後、10年後の夢の商品に向けて、より軽く、より使いやすく、もっと魅力のある「心躍る商品」の開発にこれからも取り組んでまいります。

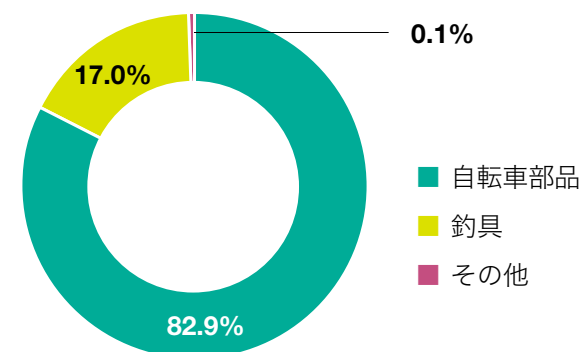




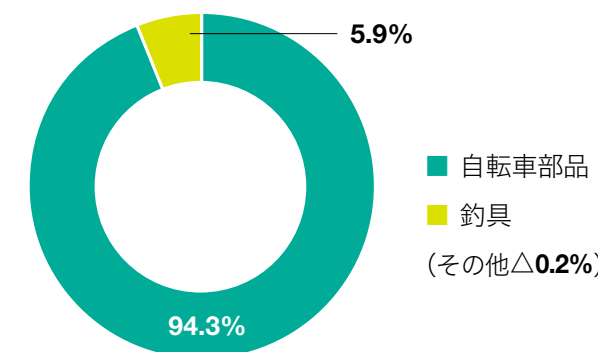
■ セグメント別の売上高と営業損益の状況

第109期第2四半期	売上高 (単位: 百万円)	増減率 (前年同期比)	営業損益 (単位: 百万円)	増減率 (前年同期比)
自転車部品	163,002	29.7%	42,759	51.8%
釣具	33,386	9.8%	2,667	19.2%
その他	196	△ 5.2%	△ 70	—%

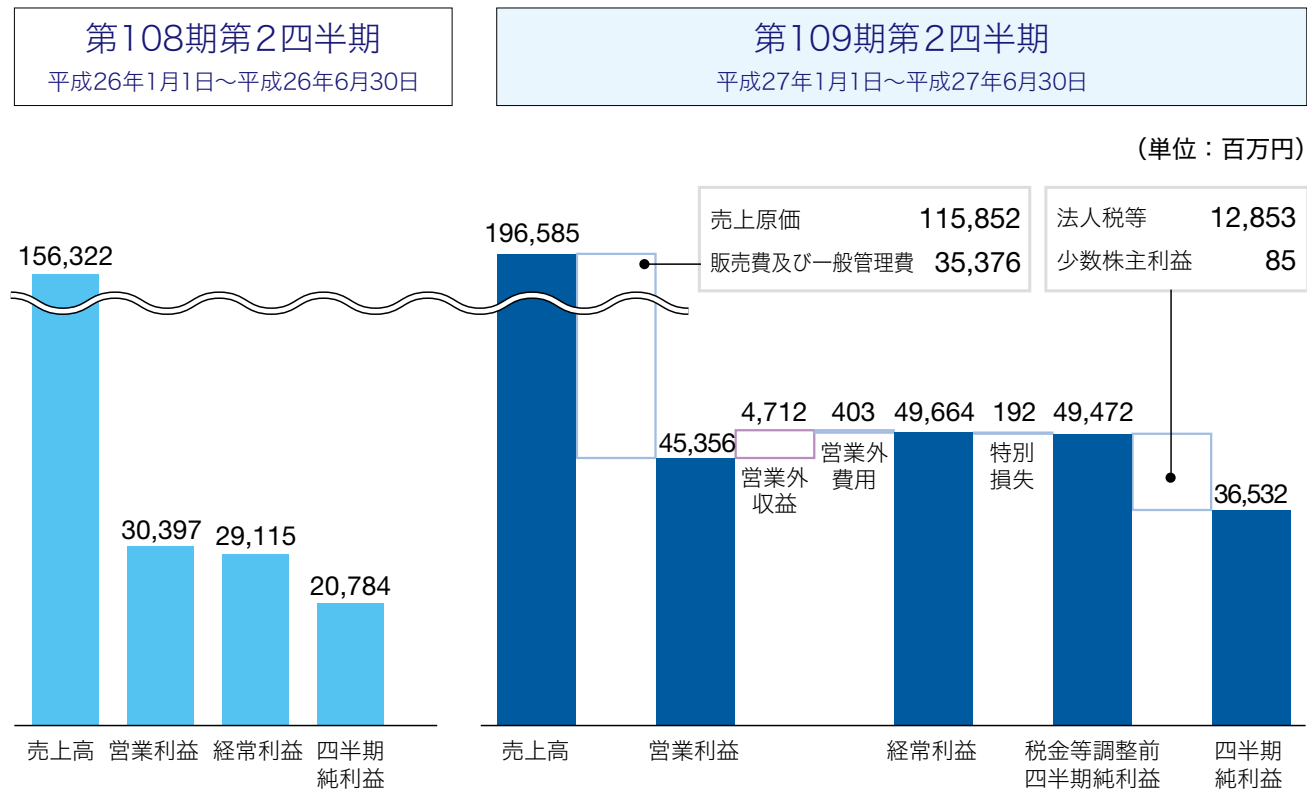
セグメント別の売上高比率(第109期第2四半期)



セグメント別の営業利益比率(第109期第2四半期)



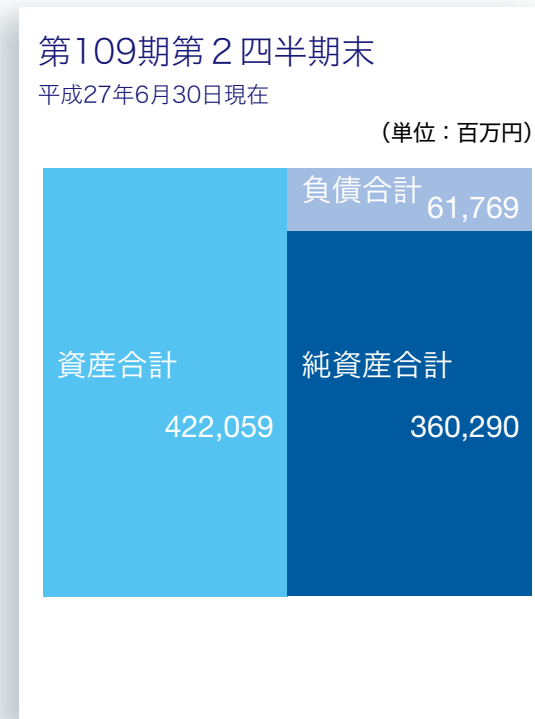
■ 連結損益計算書 (要約)



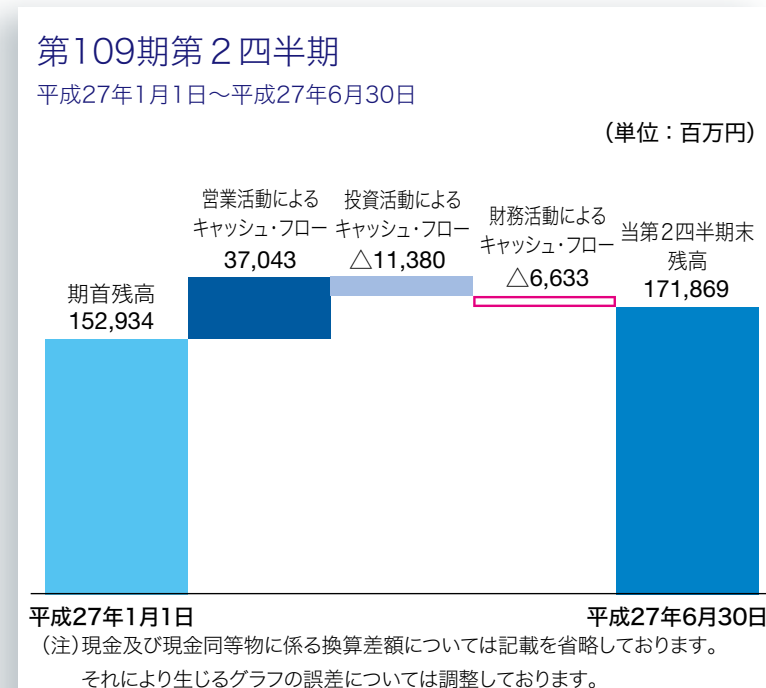
第109期予想(連結)

	業績予想		セグメント別売上高予想	
売上高	3,600 億円	前期比 8.1%増	自転車部品	2,961 億円 前期比 8.1%増
経常利益	813 億円	前期比 14.5%増	釣具	635 億円 前期比 7.9%増
当期純利益	595 億円	前期比 16.1%増	その他	4 億円 前期比 3.3%増

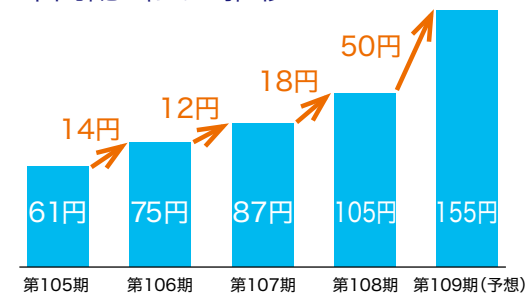
■ 連結貸借対照表 (要約)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)



年間配当金の推移

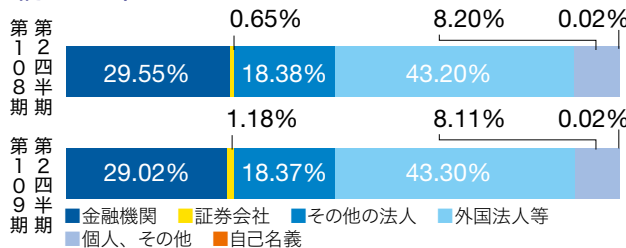


第109期の第2四半期配当金は、1株当たり25円増配の77円50銭(うち特別配当71円25銭)とし、年間配当予想額を1株当たり50円増配の155円とする予定です。

今後も、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題ととらえており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を目指してまいります。

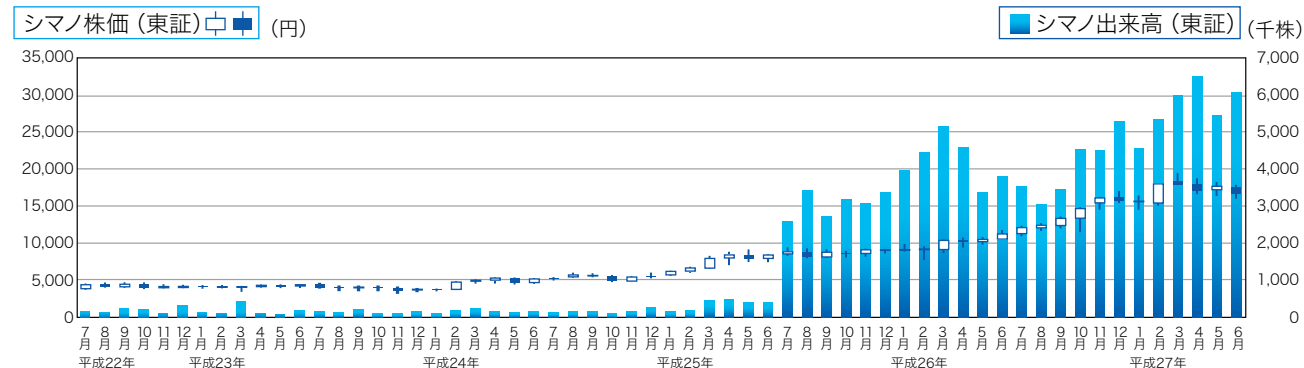
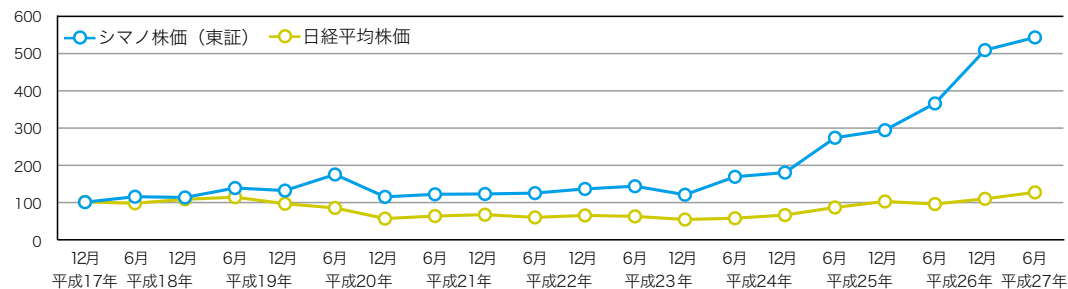
- 発行可能株式総数 262,400,000株
- 発行済株式総数 92,720,000株
- 株主数 7,418名
- 単元株式数 100株

構成比率



株価チャート

平成17年12月(終値)を100とする変化率



※平成25年7月16日に大阪証券取引所が東京証券取引所と合併したことに伴い、同年7月以降の売買高が増加しています。

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
湊興産株式会社	7,400	7.98
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	4,664	5.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,117	4.44
太陽工業株式会社	4,040	4.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,297	3.56
株式会社スリーエス	2,171	2.34
日本生命保険相互会社	2,098	2.26
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,066	2.23
CBNY-CHARLES SCHWAB FBO CUSTOMER	1,932	2.08
株式会社りそな銀行	1,711	1.85

(注)持株比率は自己株式(15,894株)を控除して計算しております。

社名 株式会社シマノ
 英文社名 SHIMANO INC.
 創業年月 大正10年(1921年)2月
 設立年月 昭和15年(1940年)1月
 資本金 35,613百万円
 事業内容 自転車部品、釣具、冷間鍛造品およびロウイング関連用品等の製造販売
 本社 〒590-8577
 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
 URL www.shimano.com

役員

代表取締役社長	島野 容三	取締役	豊嶋 敬
代表取締役専務取締役	角谷 景司	取締役	人見 康弘
専務取締役	渡会 悦義	取締役	チア チン セン
専務取締役	和田 伸司	取締役	松井 浩
常務取締役	湯浅 哲	社外取締役	一 條 和 生
常務取締役	平田 義弘	常勤監査役	島津 孝一
取締役	島野 泰三	常勤監査役	勝岡 秀夫
取締役	樽谷 潔	社外監査役	松本 五平
取締役	津崎 祥博	社外監査役	野末 佳奈子

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 3月下旬に開催いたします。
 基準日 期末配当金 毎年12月31日
 中間配当金 毎年6月30日
 単元株式数 100株
 公告方法 電子公告
 当社のホームページに掲載いたします。
 (http://www.shimano.co.jp/content/Corporate/japanese/index/IRinfo/electronic.html)
 ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 ☎ 0120-782-031
 ホームページURL http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
 証券コード 7309